

化学教育 徒然草

— 化教誌のおかげで —

UEDA Kazutoshi

植田 和利

広島市立基町高等学校 教諭



私は、高校生の頃、化学は覚えることが多く、また環境汚染に関わるという負のイメージが大きくて、それほど興味がもてず、それより宇宙のロマンや天才たちの物語に憧れて物理学を学びたいと思っていました。大学入試は理学部物理学科を受験しましたが、合格は第2志望としていた化学科でした。進学を悩みましたが、合格の安堵感には勝てず、入学することにしました。ネガティブな動機で化学を専攻することになったのです。

多くの先生は、中高生時代から興味があり、勉学に励んだ教科・科目を担当されています。そして、その時代の思い出があるからこそ楽しく前向きな授業を展開されているように感じます。しかし、私は、教員駆け出しの頃、高校時代の化学への想いが払拭できずに退屈な授業をしていることを痛感していました。「どうしたものか」と苦慮していたところ、ある研究会で化教誌が紹介されたことがあり、その内容に惹かれました。ほどなく購読を始めたのですが、掲載されていた講座や記事はためになるものが多く、授業内容を考える上で大変参考になりました。また、研究熱心な先生方の実践報告が紹介してあって、それを模倣したり、少し工夫を加えたりして、演示実験や探究活動などに活用させていただきました。こうして化教誌を利用するうちに、徐々に引き出しも増え、多少は化学の面白さを感じてもらえる授業ができるようになった気がします。さらに、化教誌には多くの教材開発が報告されていますが、私も実験中の生き生きとした生徒の表情を楽しみとして教材開発に取り組み、その面白さに引き込まれていきました。そして、化学の教員として活動してきた証を残す意味も含めて、報文の投稿に挑戦するようになり、いくつか掲載までたどり着くことができました。化教誌は教材開発の楽しさとそれを報文として残す喜びも与えてくれたのです。おかげで、化学への想いが後ろ向きであった私も、今では化学抜きでは考えられない人間になっています。「人間万事塞翁が馬」でしょうか。

高校の教員となってはや40年が過ぎようとしています。長きにわたりガイドブックであった化教誌に感謝するとともに、ますますの発展を期待いたします。

[連絡先]

730-0005 広島県広島市中区西白鳥町 25-1 (勤務先)